

## 平成二十六年 前期日程 入学試験 学力検査問題

### 国語

文学部・教育学部・法学部・経済学部

平成二十六年二月二十五日 十三時三十分～十五時三十分(二〇分)

#### 注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子、解答用紙を開いてはいけない。
- 二、この問題冊子は、十五ページである。問題冊子の白紙のページや問題の余白は草案のために使用してよい。なお、ページの脱落、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には申し出ること。
- 三、解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペン・万年筆などを使用してはいけない。
- 四、解答用紙の受験記号番号欄(一枚につき二か所)には、忘れずに受験票と同じ受験記号番号をはっきりと判読できるように記入すること。
- 五、解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。各問とも解答の指定字数には句読点・括弧等を含む。
- 六、解答用紙を持ち帰ってはいけない。
- 七、試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

四

次の文章は、南宋の周輝しゅうきの作である。読んで問いに答えよ。なお、設問の都合上、一部訓点を省いたところがある。

「借書一瓿、還書一瓿」、後訛為「痴」、殊失忠厚氣象。書非天降

地出、必因人得之、得而秘之、自示不広、人亦豈肯以未見者

相俛。唐杜暹家書、末自題云「清俸買來手自校。子孫読之知聖

道。鬻及借人、為不孝」。鬻為不孝、可也。借為不孝、過矣。然

輝手抄書、前後遺失亦多、未免往來于懷。因読唐子西「失

茶具說」、絜然不復芥蒂。其說曰「吾家失茶具、戒婦勿求。婦

曰『何也』。吾応之曰『彼窃者、必其所好也。心之所好、則思

得之、懼ニ吾靳之、不<sub>レ</sub>予也、而窃之、則斯人也、得其所好矣。得<sub>レ</sub>其

所好、則宝之、懼ニ其泄、而秘之、懼ニ其壞、而安置之、則是物

也、得<sup>タリ</sup>其<sup>ノ</sup>所<sup>ヲ</sup>託<sup>スル</sup>矣。人<sup>ハ</sup>得<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>所<sup>ヲ</sup>好<sup>ム</sup>、物<sup>ハ</sup>得<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>所<sup>ヲ</sup>託<sup>スル</sup>、復<sup>レ</sup>何<sup>レ</sup>言<sup>ハ</sup>哉<sup>ヤ</sup>。婦<sup>ハ</sup>曰<sup>ク</sup>

『<sup>あ</sup>嘻、<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>鳥<sup>ハ</sup>得<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>貧<sup>シ</sup>』。輝<sup>モ</sup>亦<sup>タ</sup>云<sup>ハ</sup>。

(周輝『清波雜誌』による)

(注) ○甌——酒瓶。古代中国では「甌」に酒を満たし書を借してくれたことへの謝礼とした。

○痴——「甌」と発音が類似する。○杜暹——唐(六一八、九〇七)の人。○清俸——俸給。

○校——校定すること。○鬻——売ること。○懷——ここでは「心」と同じ。

○唐子西——北宋(九六〇、一一二七)の人唐庚。子西は字。

○芥蒂——胸につかえること。わだかまりとなること。○靳——惜しむこと。

問(一) 傍線の箇所(1)「戒婦勿求」、(2)「鳥得不貧」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名づかいでよい。

問(二) 傍線の箇所(a)「豈肯以未見者相飯」、(b)「前後遺失亦多、未免往来于懷」を口語訳せよ。

問(三) 傍線の箇所ア「借書一甌、還書一甌」の「甌」が、「痴」に変わって「借書一痴、還書一痴」となった場合、どのような意味になるか。三十字以内で記せ。

問(四) 傍線の箇所イ「復何言哉」は、唐子西のどのような考えに基づくか。四十字以内で記せ。

問(五) (i) 文中の杜暹、唐子西、唐子西の婦、およびこの文章を書いた周輝のうち、考え方の共通する二人をあげよ。

(ii) 二人の考え方の共通する点を、五十字以内で記せ。